

修士論文（要旨）
2025年7月

長期結婚継続中のポスト中年期夫婦における高い夫婦関係満足度の要因
—妻の視点からの質的研究—

指導 杉澤 秀博 教授

国際学術研究科
国際学術専攻
老年学学位プログラム
223J5901
三原 由紀

Master's Thesis (Abstract)
July 2025

Factors Contributing to High Marital Satisfaction Among Post-Midlife Couples in Long-Term Marriages: A Qualitative Study from the Wife's Perspective

Yuki Mihara
223J5901

Master of Arts Program in Gerontology
Master's Program in International Studies
International Graduate School of Advanced Studies
J. F. Oberlin University
Thesis Supervisor: Hidehiro Sugisawa

目次

第1章：研究背景と目的.....	1
1.1 研究背景と社会的要請.....	1
1.2 夫婦関係満足度の重要性.....	1
1.3 夫婦関係満足度の要因に関する先行研究の到達点と課題.....	2
1.4 研究の目的と意義.....	3
第2章 研究方法.....	4
2.1 研究対象者.....	4
2.2 研究方法.....	5
2.3 分析方法.....	5
2.4 倫理的配慮.....	5
第3章 結果.....	6
3.1 分析対象者の概要.....	6
3.2 生成されたカテゴリー、概念.....	6
3.3 ストーリーライン.....	7
3.4 カテゴリー、概念の詳細.....	8
第4章 考察.....	12
4.1 本研究の視点と結果の要約.....	12
4.2 夫婦関係満足度を支える構造.....	13
4.3 本研究の限界と今後の課題.....	14
謝辞.....	15

参考文献

第1章 研究背景と目的

1.1 研究背景と社会的要請

長寿化と少産化により、子育て終了後に夫婦のみで過ごす期間が長期化し、再適応が求められている。性別役割分業意識が根強く残る中、伴侶性が育まれず熟年離婚に至るケースが増加しており、離婚後の女性の経済的自立困難も課題である。

1.2 夫婦関係満足度の重要性

夫婦関係満足度は結婚の質を測る重要な指標であり、U字カーブ説に対する反証も含め、安定継続の要因解明が急務である。

1.3 夫婦関係満足度の要因に関する先行研究の到達点と課題

量的研究は要因の多面性を明らかにしたが、文化的文脈や関係の変容過程には迫りきれていない。質的研究は極めて少なく、妻の語りを通じて継続要因を構造的に把握する実証研究が求められている。

1.4 研究の目的と意義

長期にわたり結婚生活を継続し、夫婦関係満足度が高い妻を対象に、満足度の高さを支える要因を質的に探求することを目的とする。量的研究では捉えきれない主観的な意味づけや関係維持の実践知を、妻の語りを通じて可視化し、満足度を静的な状態でなく動的なプロセスとして捉える視座を提示することに意義がある。加えて、関係維持に向けた日常的努力や意味づけの積み重ねを照射することで、高齢期における夫婦支援や熟年離婚予防にも資する知見を提供する。

第2章 研究方法

2.1 研究対象者

信頼関係のある対象者に機縁法で協力を依頼し、60～74歳の女性で結婚30年以上、職業役割を終え、健康かつ同居家族がない者を対象とした。理論的飽和に基づき、10名を目安に設定した。

2.2 研究方法

半構造化インタビューを各1回実施し、Zoomで録音・逐語化した。内容は夫婦の基本情報や適応過程、転機、継続要因、対話など多岐にわたる。

2.3 分析方法

夫婦関係継続のプロセスを捉えるため、修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ(M-GTA)を採用。分析焦点者の逐語録から概念を抽出し、他対象と比較検討しながらカテゴリーに統合。理論的飽和に達したと判断し、要因構造を図示。分析過程では指導教員の助言を受けた。

第3章 結果

3.1 分析対象者の概要

協力者は 10 名であったが、QMI の基準を満たさなかった 4 名を除外し、6 名を分析対象とした。

3.2 生成されたカテゴリー、概念

分析では最終的に、13 の概念が抽出され、内容の近接性や意味的統合性に基づいて、5 つのカテゴリーへと整理された。これらは、夫婦関係を深めるための肯定的蓄積と、関係を守るために調整的働きかけという両側面から構成されており、時間的な積み重ねの中で満足度を支える基盤が明らかとなった。

3.3 ストーリーライン

夫婦関係満足度の高い妻たちは、夫との協働や信頼の積み重ねを通じて関係を深めていた。また、病気や家族の死など重大な局面で夫の存在を頼れると感じたことが、関係性の再認識につながっていた。さらに、日常的な衝突や摩擦を未然に防いだり、距離や感情を柔軟に調整したりなどの工夫を通して、関係の安定を図っていた。加えて、義家族が過度に干渉せず、妻の選択や家庭内の在り方に理解を示していたことも、安心感や自律性を支える要因として作用し、夫婦関係の形成と維持を後押ししていた。こうした関係調整、内的納得、そして環境的安定の積み重ねが、長期的な結婚継続と満足度の形成を支える心理的・関係的基盤として機能していた。

第4章 考察

4.1 本研究の視点と結果の要約

長期結婚を継続し高い満足度を測定した妻の語りから、関係維持の構造を明らかにした。量的研究では捉えきれない背景要因を質的に探究し、13 の概念を抽出。【協働体験】【重大局面での再認識】【距離の調整】【感情の折り合い】【関係形成を阻害しない義家族の存在】の 5 カテゴリーに統合され、関係を深める力と守る力の相互補完によって夫婦関係が支えられていることが示された。妻たちの語りに内在する実践知を構造化することで、支援実践や家族関係理解の深化にも貢献しうる可能性を示している。

4.2 夫婦関係満足度を支える構造

本研究の 5 カテゴリーは、先行研究 Robinson & Blanton の 5 特性と多くの対応を示した。親密性や関係維持の意思、コミュニケーション、役割の調和といった特性が妻たちの語りに表れており、日本の文化的文脈に根ざした実践知として再構成された。特に、暗黙的対話や非干渉の関係性は本研究独自の視点であり、長期的関係を支える深層構造の解明に貢献している。

4.3 本研究の限界と今後の課題

6 名の妻を対象とし理論的飽和を考慮したが、再現性や一般化には限界がある。今後は対象者の拡大と他事例との比較が求められる。また妻の語りに焦点を当てた本研究に対し、夫側の視点も含めた双方向的分析が必要である。さらに、対象者が日本の中高年層に

限定されている点から、今後は文化的・社会的背景の多様性を含めた検討が重要である。
プロセス的変容の描出には補完的手法の導入も課題となる。

参考文献

- 1) Christine P, Heather H, Cheryl B: Marital Quality and Personal Well-Being: A Meta-Analysis., Journal of Marriage and Family, 69 (3): 576–593(2007).
- 2) Charlotte S: Marital Status and Health: United States, 1999–2002, 36, U.S. Department of Health and Human Services, Centers for Disease Control and Prevention, National Center for Health Statistics, (2004).
- 3) 伊藤裕子, 相良順子: 中高年期の夫婦関係; 結婚コミットメントとジェネラティヴィティの視点から. 135–140, ナカニシヤ出版, 京都 (2019)
- 4) Margie L, Salom T, Stefan A: Midlife as a pivotal period in the life course: Balancing growth and decline at the crossroads of youth and old age, International Journal of Behavioral Development, 39(1): 20–31 (2015)
- 5) 内閣府世論調査: 男女共同参画社会に関する世論調査 (令和6年9月調査)
(https://survey.gov-online.go.jp/women_empowerment/202502/r06/r06-danjo/, 2025.4.21 アクセス (2025)).
- 6) 厚生労働省: 令和4年度離婚に関する統計の概況
(<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/tokusyu/rikon22/index.html>, 2024.11.5 アクセス) (2022)
- 7) 厚生労働省: 令和4年(2022)人口動態月報年計(概数)の概況
(<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/geppo/nengai22/index.html>, 2024.11.5 アクセス) (2022)
- 8) 内閣府: 平成22年版高齢社会白書
(<https://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2010/zenbun/22index.html>, 2024.11.5 アクセス) (2022)
- 9) 田中慶子, 永井暁子: 日本女性のライフコース; 平成・令和期の「変化」と「不变」(樋口美雄, 田中慶子, 中山真緒編), 79–81, 慶應義塾大学出版会, 東京(2023)
- 10) 永井暁子: 結婚生活の経過による妻の夫婦関係満足度の変化. 家計経済研究, 66: 76–81(2005)
- 11) 水落正明: 夫婦の関係はどうかわっていくのか; パネルデータによる分析(西野理子編), ミネルヴァ書房, 183–197, 東京(2022)
- 12) 堀口美智子: 「親への移行期」における夫婦関係; 妊娠期夫婦と出産後夫婦の夫婦関係満足度の比較を中心に. 生活社会科学研究, 7: 81–95(2000)
- 13) Arthur R, Larry F, Sharon B: The Marital Satisfaction Scale: Development of a Measure for Intervention Research. Journal of Marriage and Family, 43(3): 537–546(1981)
- 14) 山口一男: 夫婦関係満足度とワーク・ライフ・バランス. 季刊家計経済研究, 73, 50–60(2007)
- 15) Tavakol Z, Moghadam Z, Nasrabadi A, et al: A review of the factors associated with marital satisfaction. Galen Medical Journal, 6(3): 197–207(2017)
- 16) Tzeng M: The Effects of Socioeconomic Heterogamy and Changes on Marital Dissolution for First Marriages. Journal of Marriage and the Family, 54(3): 609–619(1992)
- 17) 永井暁子: 結婚生活の経過による妻の夫婦関係満足度の変化. 社会福祉/日本女子大学社会福祉学科, 日本女子大学社会福祉学会編, 52: 123–131(2011)
- 18) Khezri Z, Hassan S, Nordin M: Factors affecting marital satisfaction and marital communication among marital women: Literature of review. International Journal of Academic Research in Business

and Social Sciences, 10(16) : 220-236(2020)

- 19) Kamo Y: Determinants of Marital Satisfaction; A Comparison of the United States and Japan. Journal of Social and Personal Relationship, 10(4) : 551-568(1993)
- 20) Ono H: Husbands' and Wives' Resources and Marital Dissolution. Journal of Marriage and Family, 60(3) : 674-689(1998)
- 21) 島田恭子, 島津明人, 川上 憲人 : 未就学児を持つ共働き夫婦における ワーカホリズムと パートナーの精神的健康との関連 : 夫婦間コミュニケーションの媒介効果の検討. 行動医学研究, 22(2) : 76-84(2016)
- 22) 石盛真徳他, 小杉考司, 清水裕士他 : マルチレベル構造方程式モデリングによる夫婦ペアデータへのアプローチ ; 中年期の夫婦関係のあり方が夫婦関係満足度, 家族の安定性, および主観的幸福感に及ぼす影響. 実験社会心理学研究, 56(2) : 153-164(2017)
- 23) 李基平 : 夫の家事参加と妻の夫婦関係満足度 ; 妻の夫への家事参加期待とその充足度に注目して. 家族社会学研究, 20(1) : 70-80(2008)
- 24) 稲葉昭英 : 家族と少子化. 社会学評論, 56(1) : 38-54(2005)
- 25) 池田政子, 伊藤裕子, 相良 順子 : 夫婦関係満足度にみるジェンダー差の分析 ; 関係は, なぜ維持されるか. 家族心理学研究, 19(2) : 116-127(2005)
- 26) 柏木恵子, 平山順子 : 結婚の“現実”と夫婦関係満足度の関連性 ; 妻はなぜ不満か. 心理学研究, 74(2) : 122-130(2003)
- 27) 門野里栄子 : 夫婦間の話し合いと夫婦関係満足度. 家族社会学研究, 7(7) : 57-67(1995)
- 28) Rosen-Grandon J, Myers J, Hattie J: The relationship between marital characteristics, marital interaction processes, and marital satisfaction. Journal of Counseling & Development, 82(1) : 58-68(2004)
- 29) Eysenck H, Wakefield Jr. J: Psychological factors as predictors of marital satisfaction. Advances in Behaviour Research and Therapy, 3(4) : 151-192(1981)
- 30) Li T, Fung H: The dynamic goal theory of marital satisfaction. Review of General Psychology, 15(3) : 246-254(2011)
- 31) 江原由美子 : 三具淳子著 『妻の就労で夫婦関係はいかに変化するのか』 . 社会学評論, 73(3) : 305-306(2022)
- 32) 木下康仁 : 質的研究と記述の厚み. 弘文堂, 48-129, 東京(2009)
- 33) Robinson L, Blanton P: Marital Strengths in Enduring Marriages. Family Relations, 42: 38-45 (1993)
- 34) Beatriz C, Janari P: United for Marriage; Dynamics of Elderly Couples. An International Journal on Personal Relationships, 14(1) : 1-14(2020)
- 35) 池口武志, 杉澤秀博 : 50~60 歳代会社員のキャリアチェンジのプロセス ; 大企業のホワイトカラーラー職種 (管理職) 出身者を対象として. 老年学雑誌, 14 : (2024)
- 36) Norton R: Measuring Marital Quality; A Critical Look at the Dependent Variable. Journal of Marriage and the Family, 45(1) : 141-151(1983)
- 37) 諸井克英 : 家庭内労働の分担における衡平性の知覚. 家族心理学研究, 10(1) : 15-30(1996)
- 38) 木下康仁 : 定本 M-GTA ; 実践の理論家をめざす質的研究方法論. 62-93, 医学書院, 東京(2020)